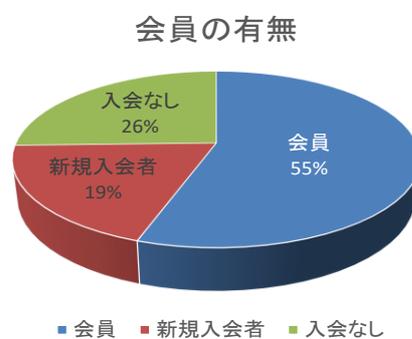
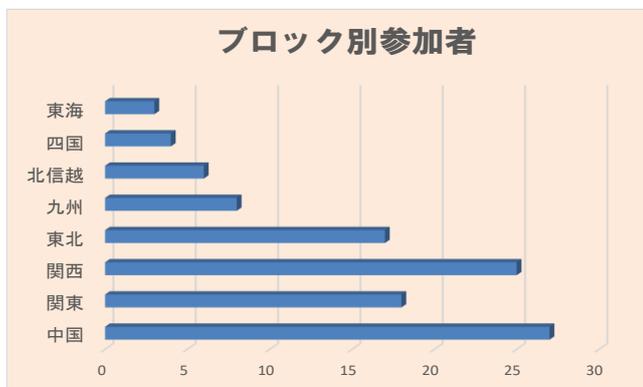
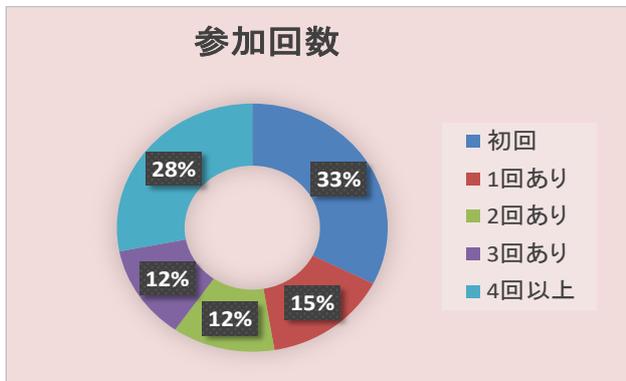
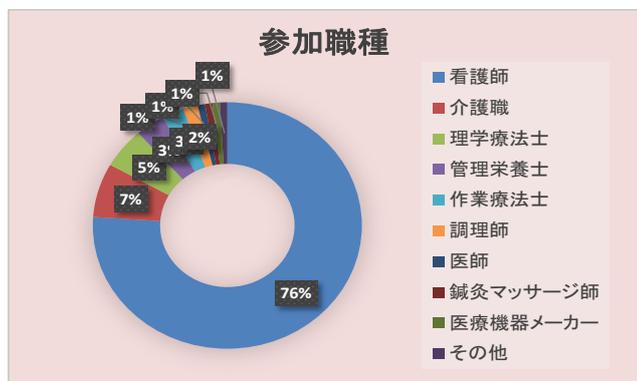


コロナ禍の中ですが、全国からPOTTを愛する方達が沢山参加いただきました。概要を紹介し報告に代えます。今後の活動に活かしていただけましたら幸いです。

日時：6月13日（日）13：00～16：00

参加者：申し込み114人 参加内訳は以下の通り



【プログラムの概要】

*大会の全内容は、期間限定で動画を公開します

1. 活動報告&活動計画（2021年）

<p style="text-align: center;">2020年度活動報告</p> <p>1. POTTプログラムの技術伝承推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国への伝承活動：36都道府県伝承目標 ⇒COVID-19で延期5件 2) POTTプロジェクト全国大会：5月12日オンライン総会 3) CF支援リターン研修会：広島県内1件（7・8月） 広島県外2件延期 4) オンライン学習会開催 7月よりZOOMにより開始 <ul style="list-style-type: none"> ●1回目 参加者 52名、 ●2回目10月25日「姿勢を観る」：50名 ●3回目1月「POTTの教育方法及び伝承モデル」 47名 5) ネスレ日本株式会社主催オンラインセミナー <ul style="list-style-type: none"> ●九州地区11月3日間コース（参加80名） ●中国地区2月・3月2日コース（参加120名） <p>2. POTTプログラムの深化及び評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症流行期の基本スキル作成 HPで公開（4月） 2) 学習会へ事例検討を追加 資料はHP会員専用保存 <p>3. 情報提供と共有</p> <p>オンライン会議の導入 ホームページの運用 MCS活用</p> <p>4. 商標登録「POTT」 令和3年2月特許庁承認あり 学術関連の商標</p> <p>5. 3月末会員数140名（新規会員48名 協賛企業5社）</p>	<p style="text-align: center;">Ⅲ 2021年度活動計画</p> <p>1. POTTプログラムの技術伝承推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全国への伝承活動 <ul style="list-style-type: none"> 第3回全国大会開催 2021年6月13日（土）オンライン 他のセミナー 2) 技術伝承の推進：CFリターン研修会、未伝承県・高齢地域等 36都道府県へ 3) 指導者の育成：リーダー研修開催1～2回。 4) ブロック活動推進 オンライン学習会・セミナー開催 <ul style="list-style-type: none"> 第4回POTT学習会 4月17日 食べられる病院めざして 講師 芳村直美氏（関東ブロック） 第5回POTT学習会 9月4日 事例検討会 担当：北陸ブロック 第6回POTT学習会 10月16日 活動・事例発表会 担当：広島ブロック 第7回POTT学習会 12月18日 担当：九州ブロック 第8回POTT学習会 2022年2月 担当：四国ブロック <p>2. POTTプログラムの深化及び評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) COVID-19予防対策入り研修会モデルの作成と公開 2) 応用スキルの可視化と提供、研究支援、学会発表等。 3) アセスメント力の強化 事例検討会開催、評価方法の開発、見える化の促進。 <p>3. 情報提供と共有 ホームページ 会員：MCS(医療用SNS)</p> <p>4. 用品開発</p> <p>座面シート、足台、テーブル、POTT関連用具等 効果的な用具探索、紹介等</p>
--	---

2. POTT 関連グッズ紹介

- 多機能車いす POTT 幹事 佐々木基代
- 笑みテーブル（ベッド用） POTT 理事 竹市美加
- 車いす用座面シート POTT 理事 黒瀬雅彦

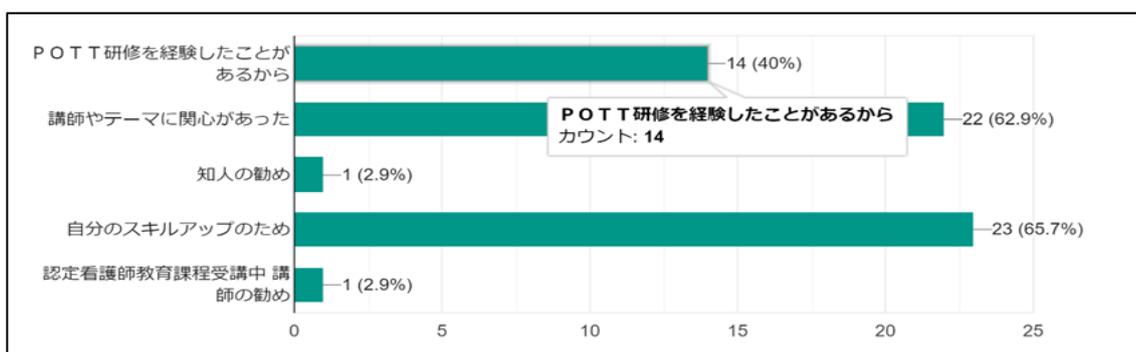
3. 特別講演 日本赤十字看護大学 名誉教授 川嶋みどり先生
抄録を事前配布 主な内容は以下です。食べること、生きることを看護経験や研究成果を通して心に響く熱いメッセージをいただきました。

<お伝えしたい内容>
 食べることは生きることー人間らしく食べるとは
 食べる喜びをつくる喜び
 初心にかえって食を見直す
 人間らしさは効率に馴染まない
 食事援助はケアそのものー支えるケア技術

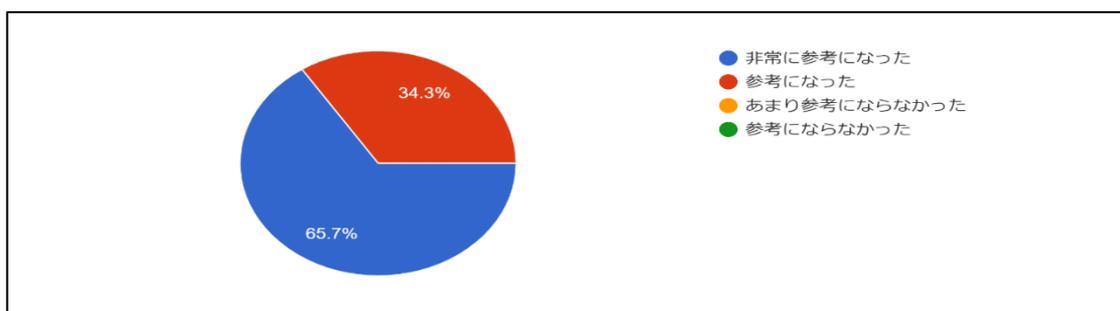
4. 交流会
 タイトル：今、私達にできること 自己紹介、活動状況、コロナ禍の現状等意見交換
 方法：6名程度のグループワーク 司会；POTT 理事・幹事
 30分のグループ、全体発表、コメント

【終了後アンケート】 回収 35名

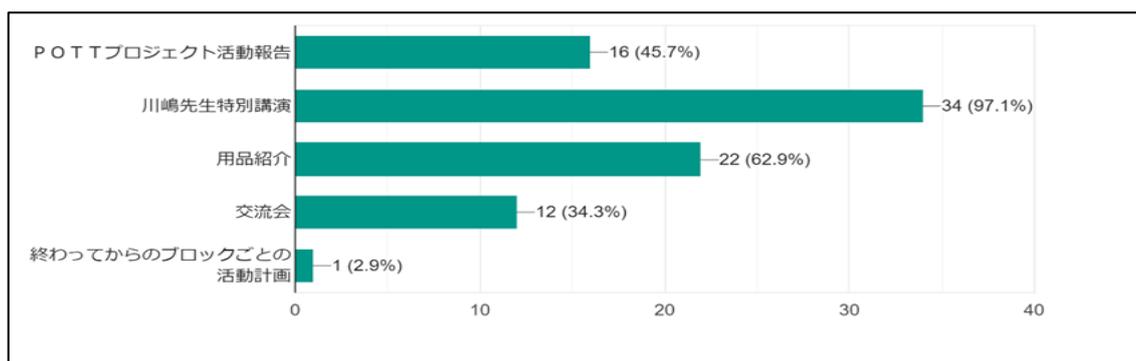
1. 参加動機について



2. 全国大会は参考になりましたか



3. 参考になった内容



4. 大会の感想やご意見（抜粋）

- ・川嶋先生の看護の基本を大切にすることがとてもよかった。自分の食べることも大事にしながら患者さんの食事を守りたいと思う。
- ・川嶋先生の講演が心に染み込みました。何より「食べること、寄り添うこと」の大切さを感じました。本当に初心に戻って利用者さんに向かい合って行きたいと思います。
- ・川嶋先生の貴重な講演では、施設内教育のなかでも伝えていきたい内容が沢山ありました。
- ・特別講演はいつも大変刺激をいただき、あらためて自身の職業を自覚し奮起させられます。
- ・食事ケアで大切なことを改めて学ぶことができました。その方へ愛情込めた支援を続けていきたいと思います。川嶋先生のお話は食事介助に携わる全職員に聞いていただきたい内容でした。
- ・今日はポトフを作りました。代替案が発達し口から食べることにフォーカスされなくなった背景や、食べることは多くの可能性を秘めているということ等沢山のことを学びました。
- ・人としての楽しみや誰と食べるのかとかそういったこととして介助される相手を思い、接していくことを前提とした上で、技術が活かされて来るのだと強く感じました。
- ・川嶋先生の講演は、日々の忙しさに忘れていた原点を改めて思い起こされました。現場ですぐに役立つお話ですばらしい講演を聞かせて頂きありがとうございました。
- ・POTTの活動報告と共に用品紹介では、当施設でも採用したいと思いました。
- ・意見交換の時間も、様々な意見を聞くことができたので、今後を活かしたいと思います。
- ・リモートだけどグループワークが出来て良かったです。
- ・交流会で皆様の前向きな意見が聞けて嬉しかったです。
- ・全国で職場も在宅、病院であったり、それぞれの場でいろいろ特徴や違いがあったりを知ることができるので視野が広がると同時に、POTTの皆さんと勉強できることを心強く思います。

5. POTTプロジェクトの活動について提案やご意見（抜粋）

- ・コロナが落ち着いたら、実技の学習会を沢山して欲しい。
- ・着実に全国にPOTTを浸透させているのはすごいです。
- ・近隣の件と一緒にPOTT活動を再開したい。
- ・今後、POTTプログラムのセミナーをやってほしい。
- ・車いすでオーバーテーブルを使うとき、キャストを乗り越えさせないといけない面倒さがあったので、開発されている用具がどのようなものになるか楽しみです。
- ・オンラインで全国の方とお話ができるのはとても良い経験になり、今後も続けて頂きたいです。

6. 食事支援の現状や課題（抜粋）

- ・食事への関心が低いだけでなく、処置や治療優先になり時間をかける余裕がないことが現状です。患者さんが食事する時間を楽しんでもらえるよう、多職種で協力していくことが課題と考えます。
- ・ゆっくりと患者さん一人一人向き合っただけで食事援助をしたいと思い、夜勤帯で限られたスタッフ人数・時間での支援となるため葛藤がある。
- ・多数の食事介助の患者様がいて介助に時間がかかると思っていたが、しっかり準備に時間をかけることで全体の時間を短縮することができるというお話しいただきました。ほかのスタッフにも実践の場面で共有していきたいです。
- ・早期から経腸栄養が開始されてはいるが、入院期間の短縮から経口摂取の確立できずに施設に退院するケースが多くなっている印象がある。
- ・超高齢の患者に窒息のリスクがあるからとパンや麺を禁止するのはどうなのかと思っています。
- ・いつから看護師はこんなに忙しくなったのか。講演のなかで指摘された効率性と分業の影響がもしも無いが、看護の原点に立ち返りたい。
- ・嚥下障害を持つ方が増え、大切な摂食支援に個々人に向き合えず片手間な状態になっている事を心苦しく思う。
- ・食支援の重要性、その価値観の共有が職員間で難しいと常日頃感じています。なぜ食支援が重要なのか、その認識とどう思いますか。技術についてもですが。やはり基礎教育の段階（看護学校

での)は大きな鍵の一つになると感じています。

- ・看護力の食支援に対する人で不足と関心の薄さ、これをどうしていくか。
- ・ポジショニングについて、院内のスタッフで共通意識を持って取り組むことができていない現状があるため、共通意識を持つような取り組みが課題である。
- ・看護師の検食に大賛成です。 ・診療報酬に看護成果が入るよう研究を進める必要がある。
- ・特養ですが、常食、刻み、ソフト食まではありますが、ミキサー食がありません。誤嚥性肺炎等で入院し、病院でミキサー食だった人も施設ではソフト食になります。もう一つは、早食いにならないよう柄の短いティースプーンを持たせて食べさせているところもよく見かけます。が、明らかに食べにくい様子で、食べるための道具の選択も大事だなと思います。
- ・私の所属する部署においてはまずは摂食嚥下にチームで関心を寄せる、看護の力でなんとかできると共通認識することが、第一の課題です。
- ・情報共有の難しさはたくさんの方が感じておられました。
- ・POTT を伝承し、継続させていくのは大変です。
- ・川嶋先生の講義の中で、「あたりまえすぎて気付かない事の中に大切なことが潜んでいる」とありました。POTT の患者体験を通して学ぶことは、あたりまえのことに気付くきっかけになることを、改めて感じました。

【まとめと今後について】

川嶋先生みどりは、POTT を「食べる喜びを支え合う」という哲学があると評して下さいました。その意味でも日本の看護の先駆者であり、常に時代をリードされている川嶋先生の講演は、今後のPOTTの活動の心理的・社会的な基盤となり、POTTプロジェクト活動に大きな示唆を下さいました。アンケートでも全員が参考になったと回答され、現場や教育で活かされていくことが期待できました。そしてIA時代のチャレンジですが大会動画を公開致します。視聴では、新たな気づきや発見があることでしょう。

一方昨年来のコロナ禍は、食事援助の対象もする側にも大きな変化が起こっています。「今何が起きているのか」も含めて交流会では意見交換しました。アンケートでも多数意見が寄せられました。次は、「私達がすべきこと」を考え、行動につながってくることを期待しています。

ご意見では、オンラインでの学習会の希望が多々ありました。学習会は、全国の仲間がつながり知識や共通認識をもつためのきっかけとなりました。今年度の活動方針にも示しましたが、種々の学習内容や事例検討を各ブロックが担当して開催します。

会員は177名となりました。未伝承県は16県で、コロナ終息後は対面研修会を開催予定しております。そのため各県にリーダー(POTT幹事)や職種別リーダー配置を進めています。オンライン大会は沢山の気づきやヒントがありました。これらを適切に活かせるようPOTTプロジェクトは、研鑽を重ねて参ります。引き続きご協力、ご支援と伝承活動をお願い致します。

